

担当者スポット

日廃振センター業務から感じたことを綴る「担当者のコラム」

教育研修部 参与 須藤 滋 SUDOU Shigeru

視点の変化

人は仕事によって視点も変わる。講習会を担当して3年以上が経つ。出勤途中に信号待ちしているトラックに目が行く。車両側面の表示は？ これもセンターに務めてからの、一種の職業病？

この夏、娘の住むホノルルに行った。住まいはアラモアナSC隣のコンドミニアム。ここでは家庭の廃棄物が夜10時まで常時出せるので、一戸建てに住む私にとって便利に感じる。

さて、私は出張や旅行にシューズを持参し、ランニングを楽しみにしている。ホノルルでは近くのアラモアナ公園にはいつも走りに行く。ランニング中にも公園の廃棄物回収ボックスについ目を止める。カン、ボトルと記されたリサイクル用の回収ボックスがあったが、カン、ボトル共有の回収ボックスというのは奇異に感じる。他に、リサイクル用以外の回収ボックスが2つずつ設置されているが、娘に聞くとほとんどの人は分けずに棄てているとのこと。

このように、廃棄物に関連する事柄がいつも脳裏にあるようで、視点が変わったと感じる昨今である。

最後になりましたが、講習会は受講生が主役。講習会担当者として受講生が気持ちよい雰囲気の中で受講できるよう、よりよい、充実した講習会を目指し今後もその運営に当たりたい。

編集後記

巻頭には、幾つかの国・地域の電子マニフェストの取り組みについて、当センター国際協力部が入手した情報を紹介しています。全ての情報を網羅しているわけではありませんが、点在する情報を整理し発信していくことが、当センターの目指す“アジアの廃棄物情報センター”の役割の一つと考えます。

産廃クローズアップの施設取材では、ご多忙の中を受け入れてくださるとともに、懇切丁寧なご説明を賜りました（株）市川環境エンジニアリング行徳工場様に厚くお礼申し上げます。

さて、今秋10月11日から生物多様性条約の締約国会議（COP10）が開催されます。本誌最終ページに掲載の小型風力発電機は、自然の知恵に学ぶ「バイオミミクリー＝生物を模倣する」という考えを取り入れ、様々な箇所に、生物のもつ機能にヒントを得て技術開発されています。こういった考えの広がりが、生態系の豊かさやバランスを保つことへの意識に繋がっていくように思います。（清和）

【アンケートへのご協力のお願い】

日廃振センターのホームページでは、本誌のPDFファイルを掲載しています。ウェブアンケートで皆さまからのご意見等をお聞かせください。

URL http://www.jwnet.or.jp/publish/kikansi_desc10_3.shtml

本誌に関する連絡先：事業推進部　e-mail:jigyo@jwnet.or.jp

日廃振センター情報（季刊）Vol.10 No.3　発行日：平成22年10月8日発行　発行人：岡澤和好
発行所：財団法人日本産業廃棄物処理振興センター
〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町2-8-4 日本橋コアビル2階　TEL: 03-3668-6511　FAX: 03-3668-6512　http://www.jwnet.or.jp/
デザイン・印刷　株式会社ウィトンズ